

花曆八笑人

下

13
3094
2



3094
2

花 曆
八 笑 人
二 卷

善惡ぜんあく 人心じんしん 觀機くわんき 関かん 冊ふみ 式亭三馬しきていさんば 作
表裏ひょうり 人心じんしん 觀機くわんき 関かん 冊ふみ 歌川國直かがわくにち 画

右の如く... 板元

花暦八笑人卷の二

あまのつねにふま後ゆえんかたもあし 紅梅くーの山様
かゝる赤深石もあつゝ海は見えん花の山里多くる中ふ
こゝけて江都の飛鳥山極人もくも人花盛吉野初津也
あまびなれその山あまも遠近ありあうそひまきそふ
道草の花見連中。柔とともふ引はぐまの月あり
や。是えんもよろめく山の峰らあり。酒のとがとも先根

ふと。たごろかえの出来あやゆき。きせんをまうづぬやうご
田花より園子のちりる戸かの碑柱の巻式六六六花の
あま出立九二亭が宿を出池の鴉を春の芳(いそ
ざり。家よ隣家も程すぎうと紅梅はさ。少と松音古
の心ゆて。ち色せうごふ転立あじ) 一おまアだアぶウかア
まアだアぶウくく 六十條の アイ六条さんせんせませう
トの直してあまびなれつるせうがまが
ちのこまもくよりうらなをぬめ 一ハイく 是へんやあまびなれ
はなうらまもくハイく 是へんやハイく 一トの直してあまびなれつるせうがまが
ちのこまもくよりうらなをぬめ

六郎と信文と信吉とをさへつゝあらせぬ隣の人 ^判コトは毎の人まが
我もくととせ集まりて母のたふさぬとせり

あておぼやうひの ^{おぼやう}おぼやう ^{おぼやう}おぼやう ^{おぼやう}おぼやう

何れ彼ももろに ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま

めく又飛き山の ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま

ト ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま

か ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま

判 ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま

あ ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま

とれど多勢のい ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
こんせく ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
とりと ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
ろの ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
あ ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
かく ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
あ ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
あ ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
あ ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま

い ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
あ ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
あ ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま
あ ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま ^{あま}あま

だが、あんまり音もよめどい。例の夕テハおんらうおん
わんだうナのおどが歩行形よりおどがむげう
そふどアアる廉をいふあり。おれゆり違がみんお
アノたて斗りハ安波公がよく音はごで音ごぶを
ま下がぐんのでなら福入「ナニサあんドなさんか
美味からしてんせよう。まうーヤごらこひと見(お成の
て後のつおが)かこまうとらみおくうが、おららるるお
あるおど、ウ、双方も赤いと、真のお口で、は
おくのまきわら「おめ「アラハ方の口を引く「おれもウッじつて
又赤いと「おめ「アバ公があれが方「たまかきてく
トシク「ト三足こらめて「平居て、是れ「おれをあれが後
赤いと「おめ「安波公がたりの口を、違ひおらうで、是れト
だん「おれがみあらあふる、お由因のお中、「とら
ニ人連続物此の物は、是れ「おれ「一向をなす
鼻の先(ひら)「おれ「おの鼻先(おの鼻先)「おれ「おれ「おれ「おれ
志ある「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ
武士を「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ「おれ

簾相そら「うま」した「マア」後「今さら簾相そら」ト云して
 尻しりはさるとて其そのふんは後「世人せじんはよあやうい持つとと実まこと付つけ
 ちる初アバアバが鼻はな面つら「ちト云て」初おと初「が面つら」ト云実まことけ
 ちる初でぬ初アバアバが初と初と初秀うつく夕ゆの初め初云初ち初り初ても初生や
 張ちやう「おと初」が面つらの初ち初の初ヤ初の初こと初承うけ知して初おと初「おめ初人初が
 おめ初人初が初大初たん初ある初不初款初奴初け初振初ある初奴初系初生初金初と初も。
 のち初く初行初ふ初は初は初ら初る初も初と初ら初ま初ぬ初。世人せじん「い初は初ら
 求初い初は初身初。籠初五初帝初及初ま初人初で初試初と初ま初せ初る初。「こ初ち初ら初」
後

御おん答こたへの「ト云らる初む初ら初て初ん」ト云お外初者初を初付初め初ら初む初ら初武初士初の
 常とこ「お初ふ初六初ヶ初一初ん初ゆ初ん初ご初ら初ぬ初」ト云お初れ初て初お初人初彼初の初侍初従初ん初れ初が
後

おどや^思に付^つかして成程^{あつち}只今^{いま}までなめ^なおの^の

「おどや^死に斗^たりて張合^{ちやうあひ}の^こち^この^こり^こあ^あれ^れど^も」^はお^おど^どや^やに^にホ^ほ

飛^とね^ねあ^ある^るお^おを^を「^えん^んじ^じ」^さら^らも^もく^く切^きら^らに^にあ^あ

ゆ^ゆ定^じに^に「^しん^ん鳥^{てう}ぶ^ぶ」^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

「^しん^ん鳥^{てう}ぶ^ぶ」^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

左^{ひだり}を^を喰^くな^なれ^れど^もん^ん根^ねと^と不^ふ便^{べん}な^な存^{ぞん}一^{いっ}武^ぶ士^しと^とや^やア^アて^ては^は

成^なつ^つて^てま^まい^いそ^そう^う「^しん^ん鳥^{てう}ぶ^ぶ」^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

け^けま^まの^の打^う掛^けケ^ケ振^ひり^りと^と双^{ふた}方^{かた}あり^りあ^あら^られ^れた^たこ^この^の生^{せい}肉^{にく}も^も總^{そう}の^の中^{ちゆう}

「^しん^ん鳥^{てう}ぶ^ぶ」^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

ま^まして^{して}私^{わたし}ども^{ども}が^が「^しん^ん鳥^{てう}ぶ^ぶ」^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

ま^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

ま^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

ま^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

ま^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

ま^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

ま^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

ま^まま^まい^いと^とゆ^ゆと^とト^トケ^ケ猪^ち爪^{づめ}に^にお^おな^なえ^え

まして、お武土様おふゆい。なつまつと。めう。と。私ハ。
 去。が。ら。ん。で。お。が。い。れ。ま。せ。ん。パイ。お。が。い。の。後。生。結。
 下。の。ゆ。り。ま。も。と。ご。う。ぞ。今。斗。の。い。は。な。ま。け。お。せ。
 ら。れ。ら。び。の。い。り。ぞ。ん。だ。な。り。ま。ま。と。ヤ。ア。今。う。ら。
 不。ぎ。や。ア。ね。人。た。ら。ま。ら。と。縁。願。い。せ。け。ら。
 猶。甲。斐。カ。ツ。に。極。て。あ。る。と。も。め。れ。ら。ら。り。い。ろ。答。河。江。た。ん。
 務。原。せ。ね。む。つ。て。込。け。ま。の。わ。ら。ま。と。と。ま。の。い。ら。あ。づ。ん。さ。
 さ。れ。バ。せ。う。ぶ。も。時。の。運。命。身。は。勝。あ。ら。て。い。や。だ。よ。く。

の。ぐ。ら。が。あ。つ。で。い。お。ち。彼。は。日。の。内。健。舟。の。人。と。さ。が。
 ち。あ。ら。ん。引。ひ。や。ア。く。ま。や。あ。ら。ぬ。り。ト。出。国。が。枝。を。た。の。
 抑。小。校。は。他。區。一。會。身。強。即。舟。と。移。わ。な。さ。ハ。ハ。ト。お。ど。う。に。
 足。さ。ら。ん。せ。し。る。て。お。く。移。わ。さ。ら。ん。と。い。ま。く。ま。ら。り。お。れ。
 猶。甲。斐。ハ。ヤ。レ。ち。つ。く。ざ。ん。ド。ひ。さ。や。ア。じ。ら。う。あ。れ。
 先。刻。より。名。や。い。ホ。の。為。辭。か。て。ん。ゆ。の。ぬ。と。ま。も。ま。さ。
 中。心。も。な。ご。く。は。思。切。の。不。持。と。ま。さ。ん。ま。ま。し。た。が。
 何。さ。ぬ。傳。不。載。天。の。族。う。と。あ。る。が。ま。ら。公。も。何。さ。り。さ。そ。
 一。た。の。ら。や。ど。ま。あ。の。傳。ら。ぬ。の。再。り。な。ら。ね。な。る。と。い。ま。ま。

のぞくおぼしきものも。万一返り打しなるとませうもの知れ
ません。トおぼしきものも。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
そのものでおぼしきものも。天の助。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
「やアてはらう」ハハハ強かろう。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
家仲小名をいふ。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
小く。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
「さういふ」及び。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
の尾。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。

らしい。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
「さういふ」我く。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
「さういふ」何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
「さういふ」昔の。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
「さういふ」茶が。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。
「さういふ」大。何れにせよ。何れにせよ。何れにせよ。

中^サに^カき^テ「^籠ね^ぢど^ハ方^ハも^カくも^人月^志の^カら^スと[。]
おの^ク方^人に^テ我^カも[。]さ[。]ん[。]に[。]配[。]じ[。]ご[。]ま[。]う[。]。」と[。]言[。]ふ[。]
跡^ノお[。]ま[。]ら[。]れ[。]ど[。]も[。]是[。]非[。]亦[。]及[。]び[。]ぬ[。]ち[。]ら[。]れ[。]や[。]ウ[。]「^籠武^門
道[。]を[。]鷹[。]く[。]我[。]く[。]。」と[。]言[。]ふ[。]も[。]四[。]の[。]う[。]あ[。]り[。]若[。]子[。]に[。]行[。]ふ[。]也[。]と[。]
武^門の[。]め[。]う[。]が[。]今[。]の[。]ハ[。]吉[。]倉[。]「^ニテ^者ハ[。]イ[。]ヤ[。]」と[。]お[。]の[。]ぶ[。]じ[。]と[。]也[。]
身[。]と[。]大[。]切[。]な[。]本[。]懐[。]の[。]た[。]ら[。]〜[。]と[。]な[。]れ[。]由[。]縁[。]も[。]あ[。]ら[。]バ[。]
年^々〜[。]と[。]言[。]ふ[。]故[。]の[。]由[。]ま[。]せ[。]し[。]と[。]「^カレ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]
け[。]ぞ[。]保[。]ら[。]う[。]。」「^カレ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。」「^カレ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。
は[。]ら[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。」「^カレ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。」「^カレ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。」

付[。]て[。]さ[。]ら[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]も[。]兼[。]相[。]づ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]も[。]同[。]じ[。]な[。]ら[。]ず[。]
さ[。]ら[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]も[。]兼[。]相[。]づ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]も[。]同[。]じ[。]な[。]ら[。]ず[。]
お[。]ら[。]ア[。]向[。]成[。]む[。]ら[。]居[。]ら[。]う[。]。後[。]ら[。]う[。]人[。]の[。]身[。]ま[。]の[。]も[。]知[。]れ[。]
又[。]若[。]ど[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]も[。]兼[。]相[。]づ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]も[。]同[。]じ[。]な[。]ら[。]ず[。]
侍[。]の[。]身[。]ま[。]の[。]も[。]知[。]れ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]も[。]兼[。]相[。]づ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]も[。]同[。]じ[。]な[。]ら[。]ず[。]
「^カレ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。」「^カレ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。」
事[。]は[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。」「^カレ[。]〜[。]と[。]言[。]ふ[。]は[。]も[。]く[。]。」

相が。まゝく。と。顔。へ。突。き。け。て。海。を。も。は。り。わ。り。で。は。合。う。
い。ま。あ。ひ。で。赤。で。は。は。の。く。を。さ。が。の。お。い。さ。ご。も。の。こ
後。で。中。ら。れ。る。お。ど。う。も。さ。り。い。あ。て。も。ご。り。と。さ。る。ハ
皆。一。ホ。三。あ。さ。り。い。る。ゆ。う。ち。う。さ。う。ア。は。も。あ。ん。ま。り。纏。ま。す。ナ
て。あ。い。多。分。ま。ご。り。も。さ。り。い。あ。い。れ。ど。教。育。が。あ。り。あ。る。人
な。や。ア。ね。く。な。ん。だ。は。方。違。ご。と。い。つ。て。大。き。切。り。極。め。り。く
め。ま。ご。り。ち。が。な。ね。が。先。も。解。説。人。少。せ。さ。ご。り。く。一。人。ご。
い。ま。を。い。い。ま。ご。り。武。士。の。威。光。だ。い。ご。り。ち。が。ダ。ア。と。い。つ。て。仕

舞。と。吹。入。り。ま。あ。い。い。つ。う。う。と。理。を。付。て。あ。り。者。あ。り。あ。
我。い。は。後。四。座。中。ハ。イ。り。極。あ。ら。ご。り。で。海。で。は。海。舟。
それ。ご。り。所。人。ハ。別。が。悪。イ。ハ。る。麻。ア。云。ね。何。人。ご。り。て
あ。ま。ご。り。大。根。を。切。り。極。め。り。ソ。ウ。も。遊。く。海。の。ご。り。ち。も
荒。神。さ。ぬ。も。大。根。極。め。り。あ。ら。ア。又。ま。ま。さ。ご。り。い。い。あ。め。乃
た。め。あ。ら。る。あ。ま。ご。り。方。へ。出。入。の。賊。人。者。人。を。亦。武。士。と。お。も。い。ま
さ。る。高。貴。ハ。皆。さ。る。麻。の。性。来。を。さ。ご。り。も。向。う。は。皆。が
ま。ご。り。と。通。り。ご。り。ち。が。新。し。く。ご。り。で。は。ご。り。い。わ。れ。を。あ。ら

とよみで目一袖を押しそこまきうちらきと目割が赤く
うたんでくま。そこで又せうふせしでぐらとくれい。さして
あれから付のまがわけて来さうおまわハ又みまあど
ホタリく 一粒指ふ又後と落さう鼻の先へ
編後りひらとさそて鼻の中をささくはなめ。右付けて降の
田下さから右と入後をさそて二部一と三おれ也後城注ヨ
おめまの松まささうのハ昔れお城注も同のふらつるまを
たう。のみみそて茶ちやを付けりて。袖そではこまきあんぞハ

肥で禪を志すに何分の意人でも知れハ志美ト云ふは今。
 時ハ心ばして後くんせわんでハ心志意ハナリそれごと
 りてうそふ後が先めうこそま紀傳があらうのサハチチ年
 とうく一書云ハ志美ト云ふの現ハ今おれがの志を
 志ヤわんハハアらんあら今後このハうとう「おれハ心サ
 「イヤさうヤ妙術ごとうそあき子う「ハこれごとう
 人を破家ト斗り志美ト云ふ。何ら志ららんハ能のある
 物今ハ志美ト云ふ。幸四命ごとハ熱意ト云ふ。さうに

縁を志すはあハ心サおれが傳ハ心サイヤ又人からりと志す
 心大相みわらを吹くらむハ志美ト云ふ。ハ心サイヤ又人からりと志す
 志しあらうハ法中ハ心サの理結ハおで第一任こそが
 あくつてお押人ト云ふヤハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サ
 だらう。志美ト云ふハ志美ト云ふハ志美ト云ふハ志美ト云ふハ志美ト云ふ
 教ハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サ
 志美ト云ふ。今夜は志美ト云ふハ志美ト云ふハ志美ト云ふハ志美ト云ふハ志美ト云ふ
 具ハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サハ心サ

よくと思ふと、いつとまを落しつた。うむいそをひで
かたから。我が親う兄弟の死の時。又まをふを
おひかた。お袋の病。人々の代は重たられ、耐の
ふんを志んよひにむ。十分愁をりておひか後まを
てむを。そのらめいおひか。おんぞともねの月ていらく考
かかうよ。いとあひかりを。てえおん。やうなま。あふよ
後のま。舞やま。舞の合出。ふん。十。の。な。よ。ま。の。お。代
取。り。の。ま。い。ア。く。く。く。お。ひ。か。ま。の。う。ら。ま。を。ま。の。こ

ナビく。ナビとつりて、る麻ぐ。し。そのやア。お経女師
ちんぞ。其くひ。し。ゆ。も。あ。ら。う。く。は。り。つ。て。ん。さ。う。し。
足下。ふんぞう。親の死。で。何。の。ゆ。を。と。ひ。出。た。ら。ん。ひ。後。を
おん。風。く。し。一。世。系。親。父。か。死。ん。で。葬。れ。の。時。を。回。り。て
おん。ま。ま。に。お。ひ。か。の。才。振。て。焼。者。に。お。給。後。時。の。ヒ。カ。を。
内。う。ら。も。お。ん。か。し。て。お。ん。ら。た。り。か。を。ギ。ク。し。ま。あ
から。膝。を。歩。け。た。う。い。や。と。や。お。ら。る。冷。汗。を。流。し。て。ん。て
片。を。お。ひ。か。の。ゆ。で。せ。其。く。ひ。の。べ。ら。ら。う。だ。り。の。を

此書ありて今も一くさるるを感す其の山も名もあはれしく少少
村にありて今も一くさるるを感す其の山も名もあはれしく少少
此書ありて今も一くさるるを感す其の山も名もあはれしく少少
此書ありて今も一くさるるを感す其の山も名もあはれしく少少
此書ありて今も一くさるるを感す其の山も名もあはれしく少少

早うこのナイヤニこれ一安波をいふ卦入り敵及弱
てきこの原とあるやしく編纂をあきらみ出して
久らがきく人コトしと梳ももはれぬあはれ一戸
向の茶屋人でもらると休つ安波と一戸はあはれぬ

連のちりせしむり人たれバワ一くさるるを感す其の山も名もあはれしく少少
くけて美て入るうみえをいふだつむせしよこれうり
てまも味がよりいゆらども書て来ふ一戸はあはれぬ
コレく一戸はあはれぬ今も一くさるるを感す其の山も名もあはれしく少少
わんせ。いふ編纂の内をいふだつむせしよこれうり
わん極で。イヤおねをいふだつむせしよこれうり
えわ人女ハ一戸はあはれぬ今も一くさるるを感す其の山も名もあはれしく少少
うらばだつら。女が男とくさるるを感す其の山も名もあはれしく少少

下がたつとつりあひの種々隠まき入の湯まきあひ
場所ごら。男増う女の方から持てる娘と成ること
コレサトアガウーアガウーおん！おん！おん！おん！
志わ入う。アガウーアガウーアガウーアガウー
来と居る娘よりアガウーアガウーアガウーアガウー
度しとつどお娘よりお娘よりお娘よりお娘より
どサト向の方へアガウーアガウーアガウーアガウー
とつりあひの湯まき入の元は纏居る一ト部

かんでおれお家の奥の方とつりあひの湯まき入
しあいのドロビイナニあれり盗人の女房より一ト部
ひの湯まき入の湯まき入の湯まき入の湯まき入
アガウーアガウーアガウーアガウーアガウー
それがお娘よりお娘よりお娘よりお娘より
お娘よりお娘よりお娘よりお娘よりお娘より
お娘よりお娘よりお娘よりお娘よりお娘より
お娘よりお娘よりお娘よりお娘よりお娘より
お娘よりお娘よりお娘よりお娘よりお娘より
お娘よりお娘よりお娘よりお娘よりお娘より

あわ入が目引神はれいもくさる様子。イヤモウ吐くとも
身がぞくぞくとだるひねむいづらもなまあておてうわ入。
知れぬうもあう傍へておしなまのよりみじくアハ
イヤもあまわいさうめい。そこも精のわ國の人で
あつて。女は味もえんぞうり。今のおりハ格が
知りまらざうら。先でもふま味もあつてさうぞく
らう。そりやア茶入の女でもあまうる格でいとも。だ
びさうしておもあうひと。名残付うて惚やくりめども

わがまもあつてあれわ入初対面からなれらさうよと
面でもあまうらやアわく。何れもわ入よよひびく
いづらとハササおまらうてらうとえ切つ掛くもあま
あまうらお後さうめいハアそれらやアがハ出舞務め
弟りでもあまうら。そよハあま伊ヤ侍わ入ヨうらら
十分見んぞくぞく斗りしうらあまこころがわくもあ
ん持うめておんぞく。先が武家育よ。うらら武
士の心び出えとぞくハ思おこるの級付たあまの

挨拶あいさつがらとまごよ朱鞘しゅせうの大小と。そいつは四回よっぺんお八編やっぺん
まきぐんぐんむ。しらしら眼めぐんぐん赤あかが。鬼おに盤ばんががア。是れ
まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。
おのんごおのんごまきぐんぐんむ。おのんごおのんごまきぐんぐんむ。おのんごおのんごまきぐんぐんむ。
付つケ換かへておまきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。
それとまきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。
おんせべおんせべおまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。
見みの場ばでお安やすくおまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。

冊ずを先まぎ漢かんで又また込こめおまきぐんぐんむ。經き冊ずを付つけおん
ぞとぞとおまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。
お安やすく。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。まきぐんぐんむ。
十二じふにそれハ鼻はな紙かみの捲まきおまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。
おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。
是こりたぐたぐとまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。
おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。
おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。
おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。おまきぐんぐんむ。

どうておれよ出逢わりのさ。仕舞がわん。吾も考てふじ。
どよとそんナぶらなるのを知りぬのさ。こもをよして
腰が押れよ。辛公眼。野呂松。おむく
それぞりく。ひらるの斗り。しり。めん。ついで。だ。ば。こ
ゆめわりのを。何と。も。自他で。こも。つ。め。わ。ん。ナ。あ。ん。の
おれよ。出逢。ま。ら。ひ。な。ま。ま。を。の。み。ハ。あ。わ。ハ。サ。ん。の
辛公なんぞ。初午。ダ。天。ま。れ。ダ。ノ。ハ。中。り。あ。が。ら。い。ら
の。日。り。の。な。ま。づ。く。と。い。ふ。の。ハ。そ。し。り。ん。ぞ。や。ア。わ。ん。え。れ。ハ

地。や。川。柳。鳥。だ。ハ。それ。で。い。ハ。ナ。一。も。兼。ぐ。ハ。地。は。で
ま。ま。が。出。逢。ま。ら。ひ。の。う。せ。や。て。相。あ。ら。い。を。れ。ど。い。ま。ね
あ。ら。い。く。イヤ。サ。其。相。あ。が。出。逢。わ。ん。と。い。ふ。の。ヨ。ナ。シ。あ。り
ま。ま。の。斗。り。ま。ら。た。ま。ら。わ。ん。い。ま。ま。ま。の。の。う。あ。首
と。あ。ま。ら。ち。や。ふ。か。つ。た。う。海。の。り。の。い。ま。ま。ま。り。け。未。だ。ま。ま
あ。ん。ナ。の。ゆ。ら。り。と。も。ち。ら。ア。ま。ら。わ。ん。と。い。ふ。ら。ま。付。後。を
た。ま。ま。ま。ま。ヨ。イヤ。ハ。ヤ。コ。の。こ。ら。わ。ん。男。ガ。グ。ま。よ。お。ら。ま
は。か。ら。わ。ん。男。よ。こ。ら。う。い。れ。バ。あ。の。ナ。ヤ。サ。ナ。ニ。ま。ま。ま。ま

三月の百味年々尋ずる 親の歌 出目 せんせうの務むぐ
 ト是より早やせうふあらまゝ一ト下付止たぬいふ言成かるがうきてカよひせ
 々々結あはれバツレンきイヤ歌うちと雨甘みまをて飛あひのー世世の今
 とを平へととさうとふー手おたうへ欠出スる年あまをこそけちうきまらぬづを
 ふみふれ毛せんをむむりうけまきうもありたかかまの口くよひうーきまふ
 ちや被合はは得ーあり十分ー切結ひひさ子言去六あれがと受たひのふ
 越してヤンくと疝の世ゆりのまぶさるもひひは世あまのこを脱は脱助
 他のだまの集ーあり三ハタテのは世種がれとありたれど一向言去六
 是ふされバせん方ありへーあうふ小なきしらたなひよいさもこれうれまらふ
 その更づくち春ざり先ん家あなうんふもて出命る。ヤいあかんのま
 けつ二人さげ孫たまきまふうーろをちまきかひりく出ま
 たち 助たるカPと いさあまをきまふよ世のこを死だんひら後ま前まう
二人年へむりしたたう出目ひびりうさうふん
トいさざらあまこふとあはれあまが
アバたうれ何さまらふまをむり
 〇レ安は公早くく途さるー

カもわりの中一チ ヤアひきまうあり。おどれぬらうとてしうきま
 ろ。マレ順礼回をうらあまう切けぬ。後 聖河は打掛
 ぬうそ坊の明カぬト 葉がみをまう。カとあつと遊之れど。まをま
 三人いたを差込をたぐる 親として。友友へあけ号。いそふのぼふあひ
 られ。あま一は家々をまるとりたの方へあられ。まのねあままをうらま
 くの世のこころもあひ。たうらうまのちのうらまをうらま。まのまあり
 ければ。けつもこんふれむも。今もあまあり切けぬ。ちれを親とて。三人
 むらう。親をまこと。根巻まうとまうと合まらう。海をうらまのあ
 ぶも。かげちうらう。はらわらうをま。まのまをうらま。たふひはつが
 たらうらうらび。又あまも夜よ入て。海をうらまをまらう。金市
 して。なまふ引世され。一はまらうあまのうらま。まのまをうらま
 ちうらうらう。〇 八笑人尾

右巻中の画面のごとく所々のところを見よ茶番のしりぞく
 けりくのしりぞくをいつしぞくハ笑人の外題も後巻も
 佳境とともんしりぞく初篇より身八篇まで追々出版
 仕ゆる何卒天市の日とすらく御評判よろしくなれ

大山 栗毛後校是三篇
 道中

瀧亭鯉丈作
 歌川 國直画

初篇二篇の先直而うろおしすれ 三篇出来

江戸

瀧亭鯉丈戯作

下谷廣徳寺門前より早の市隠
 ると一もろくぬ吉書るん



揚太真遺傳
 精製桐の箱入
処女香
 一廻り
 百二十文

とくし新茶の奉納を教の妙方そ男女小派の教の教とくし
 して茶を教へても茶を教へては後小を教へては
 茶の世間小多く白粉洗粉化粧水の中油茶を成書して
 皆ことごとく教の茶にさるおむらと物能事小多くその書付の
 半分も物能は後之けは教と物能下も久しぬの茶を教へて
 かみ茶を教へるんがことごとく方教小多く茶を教へては
 用ひるてもおち小物能の教を教へる茶を教へては

所弘賣

色自然と橋のどくあり二早月ひもろく何指不荒症の机目由
 羽二重と橋のどくあり二早月ひもろく何指不荒症の机目由
 の此。志その敷おしも海く海のそくありくまこと情合。物記て形を
 洗ひこの玉粒も海く海のそくありくまこと情合。物記て形を
 自然素糸の白くうらゝ紅指されぬ中方の糸不及半屋中方が
 用ひても目に色ばくそくありくまこと情合。物記て形を
 眞の美人とありまへ〜
 為永春水精削

後の巻と巻一 妙業 初みぎり
 巻と巻と巻と

書物并繪入讀本所

江戸京橋強左門町東側中程
 文永堂 大嶋屋傳右衛門

この巻のうらゝ紅指されぬ中方の糸不及半屋中方が
 用ひても目に色ばくそくありくまこと情合。物記て形を
 巻と巻と巻と 代三十六支

